

## 研究会報告

# 物流研究会

<http://miho.hiroshima-cmt.ac.jp/~NL/topr.html>

### 1. 2007 年度秋季講演会

平成 19 年 10 月 12 日(金) 13:30~16:00、神戸市勤労会館 406 室において、第 30 回目の物流研究会が 35 名の参加者を得て開催された。

今回の研究会では、2 編の「一般講演」と 1 編の「プロジェクト研究成果報告」が行われ、続いて「研究会総会」が開催された。本研究会の内容は以下の通りである。

#### 1) 一般講演

##### ① 「積層段ボール緩衝材の特性評価に関する研究」

瀬戸上 裕 (京セラミタ株)

川原 拓 (神戸大学大学院生)

斎藤 勝彦 (神戸大学大学院)

包装貨物に緩衝材を用いる目的は、包装内容品に伝わる衝撃を内容品が耐えることのできる範囲内にすることである。ただし、必要以上の安全余裕がないようにする必要がある。そのため、緩衝材の性能(緩衝特性)を調べなければならない。動圧縮試験を行うことによって、包装設計に用いる緩衝材の最適な厚さを求めることができる。

そこで本研究では、緩衝材に重錘を自由落下させ、そのときの重錘の加速度および変位の瞬時の時間変動を記録し、各静的応力における最大化速度、最大ひずみよりクッションカーブを作成した。これから包装設計に用いる緩衝材の最適な厚さを求めることができると報告された。

##### ② 「定期船市場の将来展望」

黒川 久幸 (東京海洋大学)

尹 星海 (東京海洋大学)

吉田 有希 (東京海洋大学)

2005 年 8 月には、A.P.Moller-Maersk による P&O Nedlloyd の買収、9 月には CMA CGM に

よる Delmas の買収、そして 10 月に TUI による CP Ships の買収が行われるなど、2005 年には大型買収が相次いで実現した。それによって寡占化が進行した。また、2006 年 8 月に Maersk Line の 11,000TEU 型のコンテナ船"Emma Maersk"が就航するなど、コンテナ船の大型化が一段と進んでいる。定期船業界において、なぜこのような大型買収やコンテナ船の大型化が進行しているのかを知る必要がある。

そこで本研究では、この理由について若干の考察を行うとともに、船会社の経営戦略についてまとめる。そして、将来の定期船市場についてみた場合、どのような船会社が競争に勝ち残っていくのかを概観する。その結果、安価で高頻度の輸送サービスを提供する船会社と荷主のロジスティクスにかかわる物流システムを提供する船会社にわかれるのではないかという報告がなされた。

#### 2) プロジェクト研究成果報告

##### 「東アジアのコンテナ貨物需要の推定に関する研究」

小坂 浩之 (海上技術安全研究所)

近年、アジア経済の成長、グローバル化、アジア物流量の増加が進展していることに伴い、アジアに着目した国際貨物流動状況を把握する必要性が高まっている。具体的には、貿易統計を使用したコンテナ貨物量の推計や船舶の運航特性を考慮したトランシップ貨物の推計を行う必要がある。しかしながら、国際的なコンテナ貨物流動に関する統計データはいくつか存在するものの、それらのデータの信頼性およびデータ間の整合性が問われている。

そこで本研究では、国際的なコンテナ流動

に関する統計データ間の不整合問題を指摘し、いくつかの換算係数の導入により、国際的なコンテナ貨物流動量やトランシップコンテナ量を推定する。それによって、東アジア内のコンテナ貨物純流動および総流動の推定がある一定の水準で可能となることが報告された。

## 2. 研究会総会

### 1) プロジェクト研究について

今年度から次年度に向けてのプロジェクト研究は、東京海洋大学大学院の西口美津子氏から応募があり、運営委員会で承認されたことが報告された。テーマは「港湾における物流の効率化や人材管理等に関する研究」で内容は以下の通りである。

食料の 6 割を輸入に依存し、貿易貨物の 99%が船舶によって運ばれる日本にとって、海上輸送はなくてはならないものである。しかし、港湾陸上施設は航路が異なり、地震の被害を受けやすく、復旧に必要な人材の確保も陸上交通の不通や人的な災害の面から容易ではない。

そこで本研究では、地震災害時に港湾物流の早期復旧を行うために必要な技能者を確保するため、技能者の定義と定義の有効性を示すことを目的とし、以下の項目を行う。

- ① 災害時の復旧の段階を(a)レベル 1 (初動)、(b)レベル 2 (応急処置)、(c)レベル 3 (救急災害輸送)、(d)レベル 4 (通常業務再開)という 4 つに分類する。
- ② 港湾物流の復旧について、船舶の着岸する岸壁とそれに続くヤードに着目し、まず復旧のレベル毎に必要な作業と技能(スキル)について洗い出しを行う。

- ③ それぞれの復旧レベルにおいて、必要となる資格・免許と復旧活動への責任という 2 つの指標で必要とされる技能者を定義する。
- ④ 実際に港湾運送に関わる技能者がどのような資格・免許等を所持しているかについて、港湾運送事業者へのアンケートを実施する。

### 2) 今後のプロジェクト研究について

研究会への補助金の使途については、再考の時期にきていると考えられるので、2008 年度はこれまで当研究会で発表された内容をいくつかに分類し、会員の今後の研究活動に役立てることを目的とした作業を行う。さらに、2009 年度以降は当研究会の中に研究プロジェクトを立ち上げ、新たに設けられる申請区分への科研費申請の促進を目標とした活動を行う予定であることが報告された。

### 3) 2008 年春季研究会について

来年度の春の大会は例年通り、物流講習会と院生の発表を計画していることが報告された。

### 4) IT 事業検討委員について

事業改革委員会で、IT を利用して会員の増加や会員サービスの向上を目的とした活動を検討する委員会の立ち上げが審議され、IT 事業検討委員会が活動を始めることとなった。当研究会では、西村悦子先生(神戸大学大学院)に引き受けていただくことが報告された。

(幹事：新谷浩一)